



TITLE:

天象

AUTHOR(S):

---

CITATION:

天象. 天界 1934, 14(160): 397-399

ISSUE DATE:

1934-07-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/166852>

RIGHT:



## I——太陽と月 (天空の明暗)

日付	日出	(星 座)	日没	日付	月齢	月出	(星 座)	月入
日	時 分		時 分	日	日	時 分		時 分
1	5 0	(かに)	7 0	1	20.3	22 17	(う を)	11 21
6	5 9	ク	6 55	2	21.3	22 51	(ひ つ じ)	12 26
11	5 13	(しゝ)	6 50	3	22.3	23 33	ク	13 29
16	5 17	ク	6 45	4	23.3	— —	(う し)	14 30
21	5 21	ク	6 39	5	24.3	0 13	ク	15 27
26	5 25	ク	6 32	6	25.3	1 2	ク	16 19
31	5 28	ク	6 26	7	26.3	1 55	(ふ た ぎ)	17 3
				8	27.3	2 52	ク	17 42
				9	28.3	3 50	(か に)	18 16
				10	29.3	4 48	ク	18 45
				11	0.6	5 46	(し ゝ)	19 12
				12	1.6	6 43	ク	19 37
				13	2.6	7 40	ク	20 2
				14	3.6	8 37	(を と め)	20 27
				15	4.6	9 36	ク	20 53
				16	5.6	10 38	ク	21 23
				17	6.6	11 42	ク	21 59
				18	7.6	12 48	(てんびん)	22 42
				19	8.6	13 55	(き そ り)	23 34
				20	9.6	14 59	(へびつかひ)	— —
				21	10.6	15 58	(い て)	0 36
				22	11.6	16 49	ク	1 46
				23	12.6	17 32	(や ぎ)	3 1
				24	13.6	18 9	ク	4 17
				25	14.6	18 42	(みづかめ)	5 32
				26	15.6	19 13	ク	6 44
				27	16.6	19 44	(う を)	7 55
				28	17.6	20 15	ク	9 3
				29	18.6	20 49	ク	10 11
				30	19.6	21 26	(ひ つ じ)	11 17
				31	20.6	22 8	(う し)	12 20

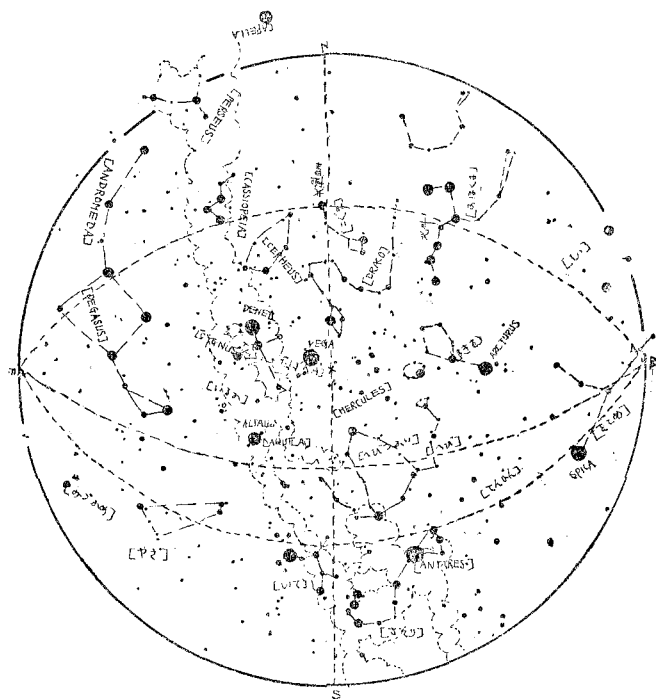
## II—天象

日	時 分	
1	6 一	水星離角(西19°35')
2	3 59	天(南6°12') と月と會合
3	6 一	金(南1°8') と火と會合
7	17 一	天王星停留
8	0 30	火(南1°32') と月と會合
8	6 26	金(南2°14') と月と會合
8	21 一	水星が昇交點
9	3 6	水(南1°2') と月と會合
10	— 一	部分日食(アフリカ南部にて金環食、日本よりは見えす)
12	11 一	金星が昇交點
12	21 36	海(北4°2') と月と會合
13	11 一	水星が近日點
16	1 5	木(北6°38') と月と會合
19	20 一	土星の對衝
24	19 46	土(南3°1') と月と會合
26	15 一	水星が外合
29	12 57	天(南6°9') と月と會合
31	12 一	水(北43')と海と會合

## 昭和九年八月の夜の天空

(恒星時 18時0分)

### Ⅲ—八月の北天星座



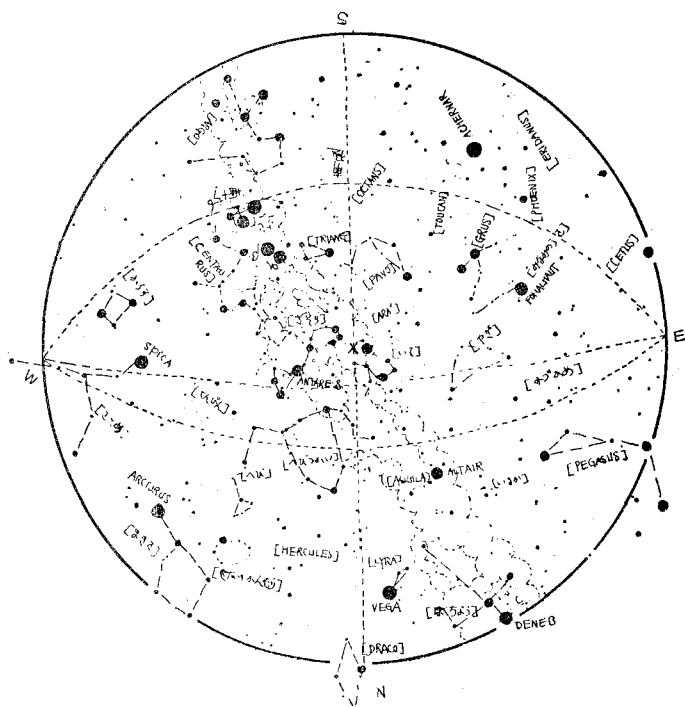
**射手座** 黄道十二星座中最南の星座。大熊座の北斗星と似た形をしてゐるで南斗とよばれる事もある。この星座に於て銀河は殊に明るく多くの星霧やの星團がある。冬至點がこの星座にあり十二月二十二日頃太陽が通過する。

**海豚座** 双眼鏡でみると美しい。小さな可愛らしい星座である。

**わし座** 牽牛星(アルタイル)を首星とする星座。アルタイルは地球より光で16年かゝる距離にある。銀河はこの星座で二つに分れる。

**こと座** 北天第一の光輝をもつ織女星(ベガ)がある。太陽は地球その他の遊星をひきつれて毎秒約20キロの速さで琴座の方向にすすんでゐる。もしも正しくベガにむかつて進んでゐるものなら 475,000 年の後には太陽の61倍もの光を放つ織女星に吾々は出合ふ事になる。

## IV.—八月の南天星座

(南緯 $30^{\circ}$ の土地にて見る)

## 小樽支部より

例會を3日午後7時から會員田中外科病院長方に於て開催致しました。仲々盛な集りで御座いました。

今月は前小樽中學校長の要職に居られ天文學に精通せらるゝ清水實隆先生に御出席を願ひ、種々御高説を伺ふ事が出来ました事は吾々に取りまして嬉しい事で御座いました。併し残念な事は清水氏が折角御持参下さいました6糎の屈折鏡を降雪の爲め使用出来なかつた事です。

今回は主として火星に付いて色々の話がありました。最後に清水氏の明治29年の枝幸を通る皆既日食見物に行かれた當時のお話がありました。下に其